法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-06

共同体のある暮らし

根岸, 大祐 / NEGISHI, Daisuke

(出版者 / Publisher)
法政大学大学院デザイン工学研究科
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学大学院紀要. デザイン工学研究科編 / Bulletin of graduate studies. Art and Technology
(巻 / Volume)
12
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
3
(発行年 / Year)
2023-03-24
(URL)
https://doi.org/10.15002/00030216

共同体のある暮らし

Living with Community

根岸大祐
Daisuke NEGISHI
主査　赤松佳珠子

法政大学大学院デザイン工学研究科建築学専攻修士課程

We can hypothesize that the relationship between the renewal of the city and the community has a significant impact on the construction of the community as a means for people to move out of society in the modern era. Therefore, in this proposal, we design and propose what will continue to be there in a city undergoing renewal. By doing so, we hope that new forms of community will be formed.

Key Words *: Community,new town,site boundary*

1．はじめに

1-1 鉄の檻

マックスウェーバーの言葉で、「鉄の檻」というものがある。
それは、現代社会において、人間がシステムの一部になっている下がっている状態、取り換え可能な状態のことを表している。

1-2 鉄の檻の外

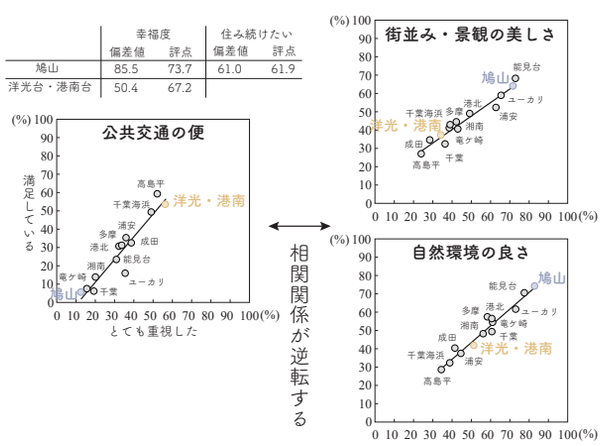
その檻の外側にはとして、社会の外側には、人間は本来のらしさや生命の営みがある。
社会学者の宮台真司は、その外側に出る手段として言外・法外・損得外などの事象に当たる、祭りや家族、性愛、共同体などが存在する。と同時にこれらのほとんどは、人間の劣化により現在の社会で凋落しつつある。と主張している。
人間が生きていく上で大切にしなければならないもの、幸せを感じるものは社会の外側での活動である。つまり、檻の外に出る手段の一つとして共同体を再構築することが、失われつつある幸せを取り戻すことであり、新たな建築や新たな暮らし作ることである。

2．調査・分析

2－1．生活環境の満足度

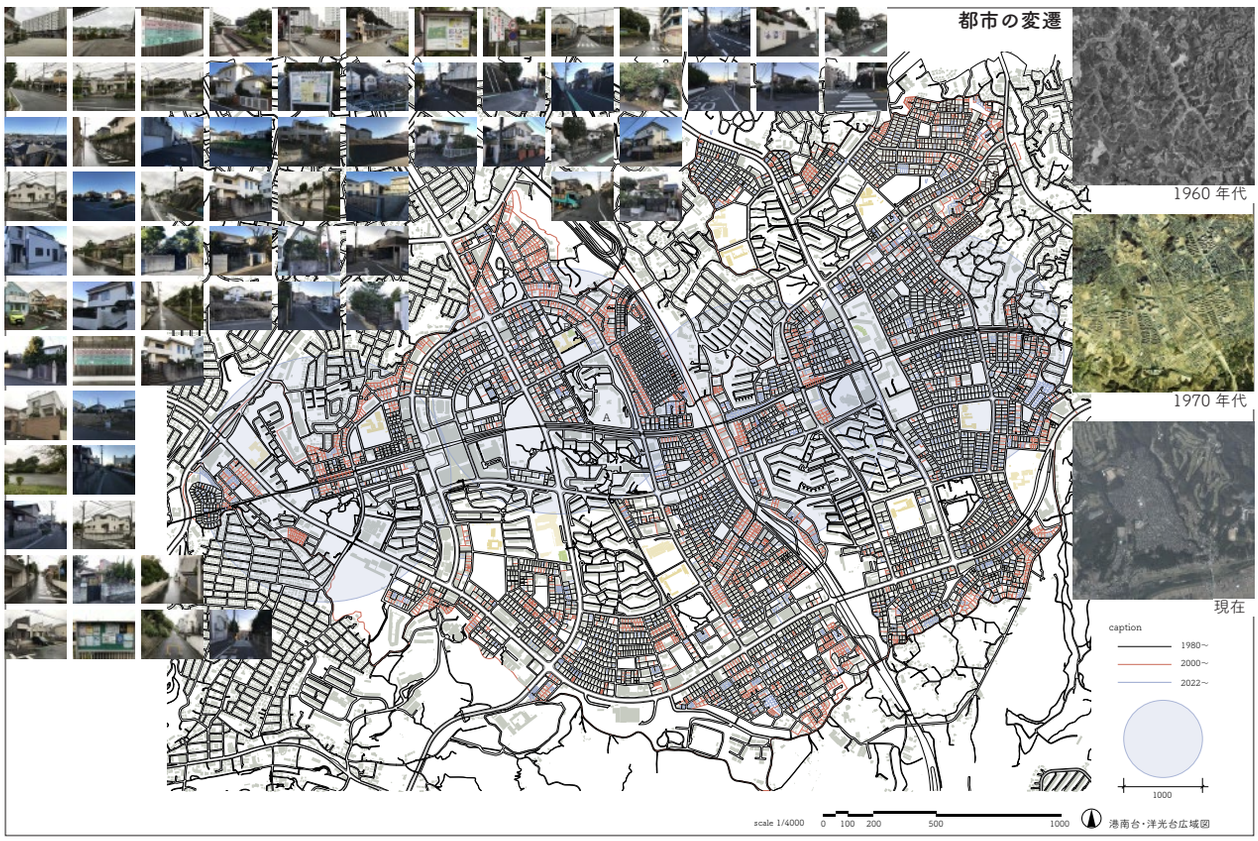
ニュータウンの満足度に関する相関図を見る。公共交通の便を重視・満足していると自然環境の良さや街なみ・景観の美しさの重視・満足している割合が下がる。一方でその逆も生じており、両極端の結果の値が出ている。この意識の差に着目し、鳩山と洋光台・港南台の２箇所を調査対象として設定する。
幸福度に照らし合わせると、正反対の結果が出る。ここから、暮らし自体に豊かさを求める方が幸福度が高くなると考えられる。

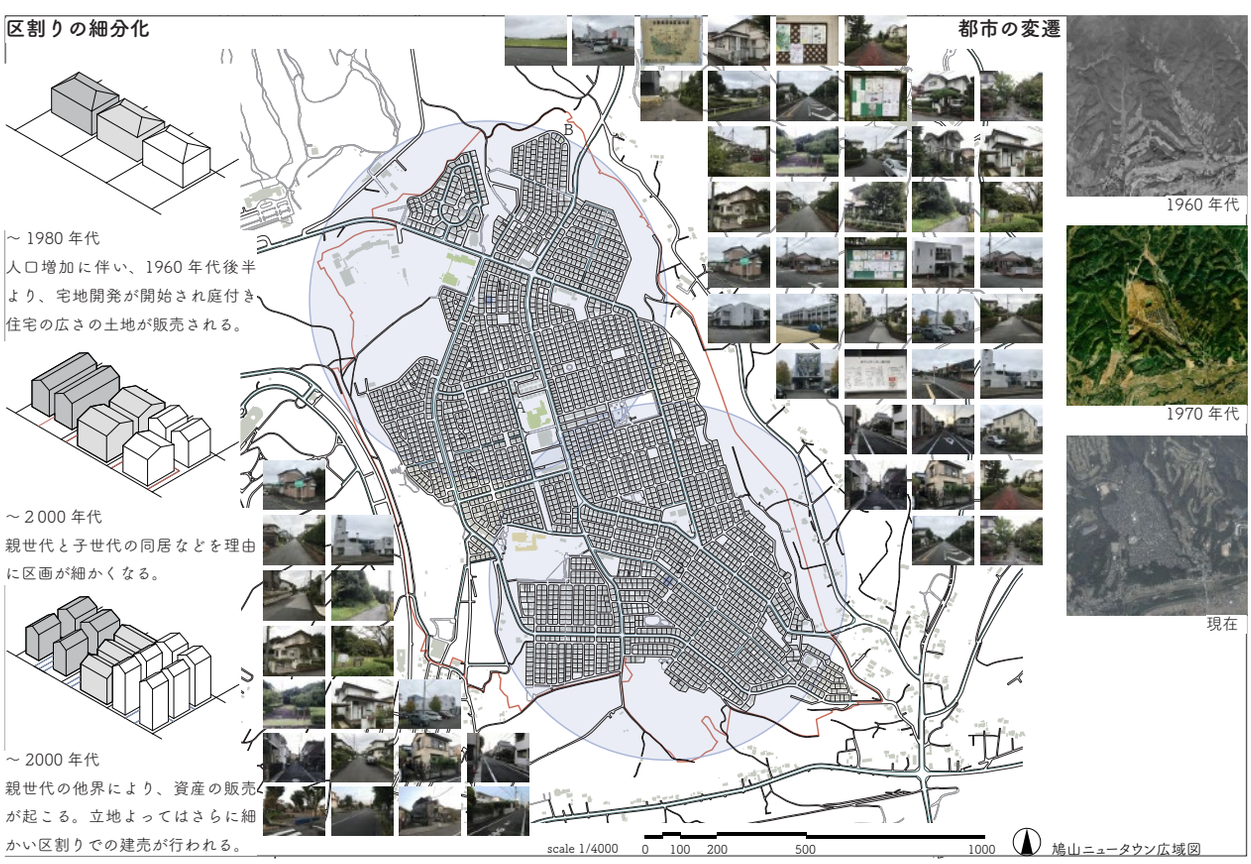
	幸福度		住み続けたい	
	偏差値	評点	偏差値	評点
鳩山	85.5	73.7	61.0	61.9
洋光台・港南台	50.4	67.2		



2-2.2 つのニュータウンの課題と微差

２つの街を比較検討すると街の閉鎖性と区割りに大きな違いがみられた。これがこの部分が共同体と幸福度に大きな影響を与えていると考えられる。そこで、本設計では境界に着目して、２つの街に同じルールの建築を設計する。そこで生まれる微差から、あるべき共同体の形の作られ方を提案する。


都市の変遷
1960 年代
1970 年代
現在
caption
1980~
2000~
2022~
1000
scale 1/4000
0 100 200 500 1000
港南台・洋光台広域図

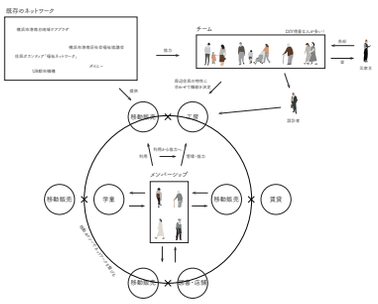

区割りの細分化
～ 1980 年代
人口増加に伴い、1960 年代後半より、宅地開発が開始され庭付き住宅の広さの土地が販売される。
～ 2000 年代
親世代と子世代の同居などを理由に区画が細かくなる。
～ 2000 年代
親世代の他界により、資産の販売が起こる。立地よってはさらに細かい区割りでの建売が行われる。
都市の変遷
1960 年代
1970 年代
現在
scale 1/4000
0 100 200 500 1000
鳩山ニュータウン広域図

	鳩山	洋光台・港南台
生活環境の重視度	街並み・景観・自然環境	交通の便
幸福度	高い (85.4)	低い (50.4)
人口 世帯数 世帯人員	H2 MAX 増→減 H7 MAX 増→減 減少中　核家族化	H2 MAX 増→減 増加中 減少中　核家族化
閉鎖性	高い	低い (スプロール化)
区割り	停止	更新

3. 設計

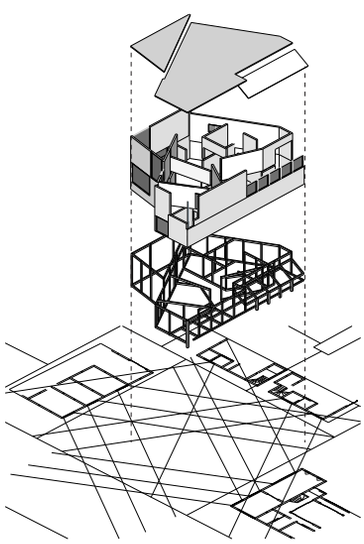
3-1 設計エリア・プログラム

まず、空き地になった場所を周辺住民が共同利用を行う。周辺住民の特性に合わせて機能が決まり、住宅間の境界がほどかれていく。港南台・洋光台では、既存のネットワークの移動販売を引き込むことでもう少し大きい範囲の住民を引き込む。それがきっかけとなり、定期利用することで利用側から運営側へも参画できる、相互扶助のシステムを提案する。一方、鳩山では積極的な活動が行われている共同体の受け皿として空間を提案する。ネットワークの一部となる。



3-2. 手法

都市の更新に着目し、周りの住宅から及び、境界から建築を設計する、まず、外観から住宅の間取りを想定し、視野角 30° を基準として、補助線を引く。そこから、ボリュームの操作を行い、周辺住民の活動を引き出す。



4. 結論

都市の更新と街の閉鎖性から共同体の在り方を考察し、2 箇所のニュータウンに設計した。街に微差があれば同じルールや形態で設計される建築空間にも微差が発生する。今回は住民の特性という微差から建築の開き方に微差が生み出された。ただ、共通するルールとしては境界と周辺住宅である。共同体と幸福度は大きく関係している。今後の豊かな暮らしを考えるためには、境界をただの敷地境界として捉えるのではなく、共同体を形成するよりどころとして扱わなければならないのだはないだろうか。

5. 謝辞

ここまで指導をして下さった赤松さん並びに小野田さんそして、エスキスをして下さった先生方、ありがとうございました。また、お手伝いに来てくれた後輩のおかげで作品を完成させることができました。本当に、ありがとうございました。

参考文献

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介（著）/ 光文社
「私たちはどこから来て、どこへ行くのか」
宮台真司（著）/ 幻冬舎
「日本の難点」宮台真司（著）/ 幻冬舎
「未来都市はムラに近似する」北山恒（著）/ 彰国社
「地域社会圏主義」山本理研（著）/LIXIL 出版
「Neighbor Next U26 Project」
http://u26.jp/2016/07/15/u-school-vol-2-2/
「首都圏整備をめぐる最近の動向」
https://www.mlit.go.jp/hakusyo/syutoken_hakusyo/h15/images/h15syutoken_003.pdf